

## 平成 28 年度 高槻中学・高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

#### ■めざす学校像

次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校を目指す

#### ■教育方針

確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養う

### 2 中期的目標

【中期的目標】、【課題を踏まえた実践計画】

#### ① SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)としての教育活動およびコース制の充実

指定2年目のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)は「先端学力知とグローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーの育成」を、今年度指定されたSGH(スーパーグローバルハイスクール)は「医科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を目指し、より高度で質の高い教育活動の展開を図る。また、コース制は導入3年目となり、中3以降の学年が、GS(グローバルサイエンス)、GA(グローバルアドバンスト)、GL(グローバルリーダー)のカリキュラムに則った学修を進めている。今後はよりコースの特性に応じた教育プログラムの充実を図っていく。さらに、現中1・中2は中3進級時にコースが分かれることから、生徒にとっては、早い段階から目的意識をもって学習に取り組むこと、明確な進路意識を持つことが求められるため、それに対応した指導とガイダンスを充実させる。

#### ② School Mission「Developing Future Leaders With A Global Mindset」の実現を図る教育活動の展開

本校のミッション実現に向け、卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成するための教育活動をより充実させる。

#### ③ 高大連携の教育プログラムの充実

本校は、大阪医科薬科大学との法人統合、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)の指定という大きな節目を迎えた。今年度は、より多様で質の高い高大連携の教育活動、教育プログラムの充実を図っていく。

#### ④ 「探求型」学習の充実と学力の三要素の育成

本校は4年前から特色教育の一展開として「探求型」学習に取り組んでいる。思考力を重視した問題解決的な学びは、中教審や高大接続システム会議の答申、それを踏まえた2020年の大学入試改革においてもキーワードとなっている。そこでは、新しい時代に求められる学力の三要素として[知識・技能]、[思考力・判断力・表現力]、[主体性・多様性・協働性]が挙げられている。自己評価では、思考力を重視した問題解決的な学習を行っているという項目の自己評価が高くなってきた(H24年度70%→H25年度72%→H26年度77%→H27年度80%)が、各教科で、知識の習得(インプット)だけではなく、考察と仮説の構築、その検証を繰り返す体系的な学びを促し、それを運用(アウトプット)する力を体得させるような学習を、本校の教育活動全体を通じて積極的に取り入れていく。また、幅広い学びの成果や活動を記録する学修ポートフォリオ『My Career Notebook』を活用し、生徒自身が振り返りや学習計画の改善、キャリアデザインできるよう指導していく。さらに、2020年以降に大学入試を迎える中学1年生、2年生は年度末に学修インタビューを行い、生徒自身が教育活動全般を振り返って考察しプレゼンテーションすることにより、主体的に学ぶ力や意欲の伸長を図っていく。

#### ⑤ 高い学力が確かに身につく指導とベンチマーク達成のための成果の検証

本校は2017年までに到達すべき進学および学習到達度の数値目標として下記のベンチマークを掲げている。これを達成するため、進学実績の飛躍的な向上を図るため、各学年が年間計画で取り組む学力向上のための取り組みの実施状況とその成果について、節目節目で検証を行い、学校全体として実効性のある改善策を実施する。また、基礎・基本を徹底し、十分な理解度や到達度をもった上で、知識活用型の発展的な学習に取り組めるよう、特に中学段階における学習指導を徹底する。さらに、生徒の潜在能力を発揮させ、学力を十分に伸ばせるよう全校をあげて学力向上に関する具体的な取り組みを実践していく。

【ベンチマーク】2017年度迄に一(A)難関国立10大学 合格者130名 (B)国公立医学部+大阪医大 合格者40名 (C)中学卒業時の英語力 50%が英検2級

#### ⑥ 新校舎建設および将来構想

自己評価では、十分な教育を行うための施設・設備が整っているという項目の評価が依然として低かった(項目38がH26年度34%→H27年度50%)。今年度より、新校舎建設が本格的にスタートし、さわらぎキャンパス全体の中長期的なレイアウトを視野に入れつつ、諸施設の整備と刷新を図っていく。

#### ⑦ 徳育教育の充実

自己評価では、生徒が生命を大切に思う気持ちや社会のルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき道徳教育を継続的に行っているという項目の評価が改善傾向にあるが、十分とは言えなかった(項目26がH24年度51%→H25年度55%→H26年度62%→H27年度59%)。また、生徒(高校生)の評価では、学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っているという項目の評価が依然として十分ではなかった(項目11がH26年度64%→H27年度61%)。今年度も引き続き、服装、挨拶、清掃活動など生活の基本を大切にする指導を徹底しながら、徳育教育の充実を図っていききたい。清掃活動が行き届いているという項目の評価は上昇傾向にあるが(項目40がH25年度35%→H26年度49%→H27年度48%)、まだ不十分であるので今後とも改善を図っていききたい。平和学習を目的とした中学修学旅行、ボランティア活動の奨励、道徳教育の充実、人権教育の推進等とともに、学校の様々な教育活動を通して、心豊かな人間を育成していききたい。

#### ⑧ 社会貢献活動としてのボランティアの推進

昨年度よりボランティア活動支援センターを校務分掌の中に位置づけ、ボランティア活動を推進している。本校のミッション実現のため、多様で豊かな人間関係にふれる体験を教育活動の中に位置づけ、リーダーが持つべき他者を思いやる心、奉仕の心、課題解決力を育みたい。社会貢献活動を中心に行うボランティア委員会と、生徒募集イベントにおいてボランティア活動を行っている「T-BEST」の活動が、世界や人類の福祉に貢献できる人物の育成に繋がることを期待している。

#### ⑨ 指導力および資質の向上を図る教員研修の実施

自己評価では、学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくあるという項目については年々改善が見られる(項目44がH24年度59%→H25年度65%→H26年度70%→H27年度70%)が、校内研修は教育実践に役立つような内容になっているという項目の評価は大きく下落した(項目43がH25年度57%→H26年度37%→H27年度45%)。今後は研修内容を吟味し、教科指導や教育的課題についての学校内外での研修をより充実させ、日常的なOJTの活性化を図っていききたい。また、今年度は深い学びを促すアクティブラーニングを推進していくための研修と、カリキュラムマネジメントに関する研修を実施し、教育活動の深化、連関性、協働性を高める取り組みを実践していききたい。

#### ⑩ ICT利活用教育の推進

今後ますます進化を遂げるであろう高度情報化社会を生き抜くために必要なICTスキルを養うため、メディアリテラシーを含めたICT教育を充実させていく。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総論】</p> <p>〔保護者〕</p> <p>全般的に高い評価をいただいている。特に、教育方針をわかりやすく伝えている、学校の雰囲気がよく子供たちが生き生きしている、進路講演会など進路に関する適切な情報提供を行っている、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる、子供に関するプライバシーが守られているといった項目で90%以上、先生は子供の能力や努力を適切・公平に評価している、先生は子供の間違った行動を厳しく指導してくれる、子供は学校行事に積極的に参加している、社会のルールを守ろうとする態度を育てようとしているなどの項目で85%以上の保護者の方から肯定的評価を得た。継続して保護者のご理解を得ながら教育活動を充実させるよう努めていきたい。一方、学習の内容や進度などを懇談や学年通信やシラバスなどによってよく知ることができるという項目の評価が中学保護者69%、高校保護者67%と低かった。アンケート実施時点では未実施だったシラバス改訂と中1・中2での学修インタビュー実施によって実情は改善されていると思うが、次年度に更なる改善に努めたい。</p> <p>〔生徒〕</p> <p>本校での生活が自分の将来にとって役に立つ、学校生活が充実しているといった項目の評価が今回も高く、本校生の充実した学校生活とそれに対する満足度の高さがうかがえる。また、学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている、授業の進度や内容は適切であるという項目は一定の評価を得ているが、より充実した内容にできるよう取り組みたい。一方、校長は自らの教育理念を明らかにして教育活動の充実・学校運営の改善を図っている、生活指導の方針に共感できる、生徒の話を聞く機会や心身の悩みに対する対応といった項目の評価が低くなっているため、理念や方針を生徒に伝えて理解を得るようにするとともに、より親身になって教育にあたるようにしたい。また、生徒の活動を活性化するような工夫をしているという項目についても評価が下降したので、あらたな委員会の設置等により改善を図りたい。</p> <p>〔教員〕</p> <p>近年進めている学校改革により、教育内容の充実・改善に関する項目、組織的な指導体制の構築に関する項目の評価が高くなっている。また、保護者との連携、新しい教育課題への対応、設備・施設の改善については、10%以上の改善が見られた。さらに、校長が教育理念や学校運営についての考えを明らかにしているという項目は13%の向上が見られ、教職員に学校改革に対する方針の浸透が進んでいることが窺える。一方、校務運営や情報の共有、清掃活動やクラブ活動の活性化に関しては不十分だと言えるので引き続き改善を図りたい。</p> <p>—まとめ—</p> <p>今後も継続して、個々の取り組みをPDCAサイクルに載せて検証し、よりよい方向に教育改革を進めていきたい。早急に解決できる課題については、すでに改善に向けた取り組みを始めているが、本校がますます発展し、生徒・保護者・教職員から高く評価されるためには、学校としての理念や指導の方針をより明確にし、教職員が一致団結して協働していくことが必要である。</p>	<p>■高槻で学ぶ一人一人の生徒達の未来を深慮し、先手先手で様々な手を打ち、大局的な立場から学校改革に取り組まれている学校の真摯な姿勢に、大多数の保護者は、心より感謝しています。生徒達が希望する大学に進学できる基礎学力プラスアルファとしての様々な経験のできる取り組みは素晴らしいと評価しています。</p> <p>■大阪ナンバーワンの進学実績、日本一のSSH・SGH 教育実践校 という高い目標を掲げ、大学受験の結果と、本来の学問たる「探求型」学習という、一見、相反する二兎を同時に追求されるという、崇高なる学校方針は、生徒達の将来にとって、非常に有益なことであり、保護者会としても、全面的に協力して参りたいと考えております。自宅学習時間の増加は教師と家庭が協力して生徒を導かねば得られないものであり、スローガンとして、全家庭が団結して取り組むべき、最も重要な事案であると考えております。今後は、学校と保護者会が協力して、更に強力なる生徒への指導が望まれます。</p> <p>■学校評価アンケートに関して</p> <p>(1) 保護者アンケートの殆どの項目が80%・90%を超える数字となっていること自体、保護者の満足度が高いことのあらわれと判断でき、当校の伝統に裏打ちされた良さと、将来を見据えた学校改革への、保護者の高い評価と判断しております。全般としては、素晴らしいアンケート結果と捉まえています。</p> <p>(2) 最も気になる点としては、中学においても高校においても学年間における評価の差に大きな乖離がある点です。特に中1と中2、高1と高3の評価に大きな乖離がある項目が目立ち、学年団の個性という良い解釈も出来ませんが、要改善な部分もあるかと考えます。</p> <p>(3) 食堂の改善（設備、味、サービスの両面）を、保護者会の意見を酌んで頂き、実施頂いたことを感謝しております。同時に要望しておりました、昼食時の混雑緩和の為の具体的手法として、「中学生・高校生の時差利用」は、他校でも取り入れて評判の良い学校があるとのことであり、直ちに実行できることですので、是非とも、早急なる実施をお願いしたいと考えます。</p> <p>(4) 数年前より改善要望のでている「校庭の人工芝化」に関して、私立の優良校では、灘中をはじめ、全面人工芝の学校が非常に多く、今の時代、必須なことと考えますので、早期の実施を検討願えませんかでしょうか。</p> <p>(5) 保護者アンケート2及び28に関連して、保護者からの要望として、当校の三者面談の少なさを改善して欲しい、という声が多いです。学校によっては、年3～6回実施している面倒見の良い学校も多く、反抗期の男の子を抱える保護者としては、進学実績を上げる為にも、是非、検討願えませんかでしょうか。</p> <p>(6) 4年前に保護者会として要望していた「宿題を最後までやりきらせる仕組みを強化して欲しい」という声に対して、改善を実行して頂きつつあることは感謝しております。「大阪ナンバーワンの進学実績」という当校の目標達成のためにも、更に、全ての教師が、強力に取り組んで頂けますことを願っております。</p> <p>(7) コース制のデメリットを補う取り組みの強化を願います。</p> <p>(8) 特色ある進学校としての価値を上げるために、勉強の強化と並行して、特色ある運動部を盛んにし、部員数の少ない部活の統廃合を進め、文武両道の価値を浸透させる取り組みを強化願います。</p> <p>■まとめ</p> <p>大阪医大、大阪薬科大との法人合併を好機と捉え、医科学に強みのある、強い特色と存在価値のある中高一貫校として、真に、日本一の学校になれるチャンスのある素晴らしい学校であることを誇りに思い、先見性と強いリーダーシップのある幹部の先生方に心より感謝するとともに、保護者会として、これらかも、結果をだせるべく、全面的に協力して参りたいと考えます。一人でも多くの生徒達が、大学生、社会人になった時にも、一生懸命努力し続けられる立派な人間になれるよう、保護者会としてもサポートして参ります。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
①SSH、SGH、GSコース制の充実	<p>(1) SSHの教育活動の充実</p> <p>(2) SGHに準じた教育活動の充実</p> <p>(3) コース制に伴う教育活動の充実</p> <p>(4) 中学の教育内容の充実と進路意識の向上</p> <p>(5) コース選択に関するガイダンスの実施</p>	<p>(1) 課題研究やその成果の発表、SS セミナー、サイエンスキャンプ、科学技術コンテストへの参加</p> <p>(2) 課題研究やその成果の発表、グローバルセミナー、Stanford 大学オンラインコース、海外フィールドワーク (パラオ)</p> <p>(3) 探究活動の充実、コース別研修の企画・実施</p> <p>(4) ア. 基礎基本の修得と定着の徹底 イ. キャリアデザイン進路講演会「ようこそ先輩」(中1、中2)、選択式進路講演会(中3)</p> <p>(5) ア. コース説明会(生徒対象、保護者対象) イ. 中学の保護者対象学年集会において説明</p>	<p>(1・2) 各教育プログラムの実施後の生徒アンケート</p> <p>(3) 高1、高2生の項目2が80%、項目4が75% (H27年度項目2が高1は80%、高2は75%、項目4が高1は72%、高2は67%)</p> <p>(4) ア. 中学生の項目4の肯定的評価が85% (H27年度84%) イ. 中学生の項目21の肯定的評価が70% (H27年度65%)</p> <p>(5) ア. 中2・中3で各1回 イ. 中学保護者の項目1の肯定的評価が90% (H27年度89%)</p>	<p>(1・2) 各プログラムにおいて、肯定的な評価が得られた。(詳細はSSH、SGH事業報告書参照)(◎)</p> <p>(3) 項目2が高1は79%、高2は70%、項目4が高1は76%、高2は63%で目標に達しなかった。(×)</p> <p>(4) ア. 項目4の肯定的評価が、中1は90%だったが、中2は73%、中3は78%、中学生全体としては81%であった。(△) イ. 項目21の肯定的評価が、中1は75%だったが、中2は45%、中3は57%、中学生全体としては60%であった。(△) 中学段階での基礎学力の定着と進路意識の向上をよりいっそう図っていきたい。</p> <p>(5) ア. 計画通り実施。(○) イ. 項目1の肯定的評価は91%であった。(○) (H27年度89%→H28年度91%) 引き続き教育方針やコース制の趣旨の理解を図っていきたい。</p>
②School Missionの実現を図る教育活動の展開	「Global Mindset」を持った次世代のリーダーを養うための教育活動の実施	<p>ア. 次世代リーダー養成プログラム(英国研修、米国研修)の実施とプログラムの充実</p> <p>イ. ターム留学(カナダ・ブリティッシュコロンビア州、アメリカ・オレゴン州に12月末～3月上旬まで留学)</p> <p>ウ. 特色教育としての英語教育の充実、使える英語を身につけるための英会話の授業(オンライン英会話含む)</p> <p>エ. GTEC CBT セミナー (GAコース)</p> <p>オ. 言語活動の充実</p> <p>カ. International Young Leaders Advancement Programme (GAコース)</p> <p>キ. コミュニケーション研修(中1)</p> <p>ク. グローバルセミナー</p> <p>ケ. 台湾研修(GAコース)</p> <p>コ. 海外の中等教育学校(延平高級中学:台湾、台南第一高級中学、ミンゼンティール高校:パラオ)との提携と交流行事</p> <p>サ. 海外サイエンスキャンプ(GSコース)</p> <p>シ. 海外フィールドワーク(GAコース)</p> <p>ス. GLコースのキャリア教育の企画</p> <p>セ. 次代を担う人物に求められる資質の教育活動を通しての具現化</p>	<p>・各プログラムの実施</p> <p>・自己評価において項目23「海外に目を開くことや次世代の世界を担う人物の育成に役立つような取り組みが行われている」の肯定的評価が85% (H27年度76%)</p>	<p>・それぞれに充実したプログラムとして実施できた。(○)</p> <p>・ターム留学については、提携校を増やし、23名の生徒が参加した。(○) (H25年度2名→H24年度4名→H27年度14名→H28年度23名)</p> <p>・高校2年次において、コース別研修旅行を初めて実施した。(◎) GLコースは東京、GAコースはパラオ、GSコースは台湾で研修を行い、コースの目標に沿ったプログラムが実施された。各コースとも研修旅行を通して、生徒の成長と意識の向上が見られた。</p> <p>・項目23の肯定的評価が85%となり目標を達成できた。</p>
③高大連携の教育プログラムの充実	高大連携の教育プログラムの開発	<p>ア. 大阪医科大学…SSH事業への支援、SGH事業への支援、基礎医学講座、医学部実習(メディカルサイエンストレーニング)、最先端医学教室</p> <p>イ. 大阪薬科大学…サマーサイエンスプログラム</p> <p>ウ. 京都大学…SSH、SGHの活動における連携</p> <p>エ. 大阪大学…SSH、SGHの活動における連携、公開講座への参加(高2)、グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)との共同研究</p> <p>オ. 神戸大学国際文化学部…SGHの活動における連携</p> <p>カ. 大阪工業大学…SSHの活動における連携</p> <p>キ. 関西学院大学…SGHの活動における連携</p> <p>ク. 大阪市立大学…SSH課題研究の指導</p> <p>ケ. 東京大学…SSH事業における研究室との連携</p> <p>コ. 北海道大学…SSH事業の北海道研修における連携</p> <p>サ. 名古屋大学…SSH事業の臨海実習における連携</p> <p>シ. SSH事業での大学研究室訪問</p> <p>ス. GAコースにおける海外大学との交流プログラム a) スタンフォード大学国際異文化教育プログラム b) ケンブリッジ大学学生とのリーダーシップ研修 c) 台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修</p> <p>セ. GSコースにおける海外大学との交流プログラム a) 海外サイエンスキャンプにおけるクイーンズランド大学、グリフィス大学での研修 b) 台湾研修における国立交通大学、台北医学大学での研修</p>	<p>・各連携事業の実施</p> <p>・高1、高2生の項目23「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができてと思う」の肯定的評価が75%。 (H27年度高1が67%、高2が69%)</p>	<p>・各大学の協力を得て、各事業とも計画通り実施できた。(◎)</p> <p>◎大阪医科大学には、新規事業として基礎医学講座を実施していただいた。放課後、計8回にわたって授業が行なわれ、64名に修了証が授与された。</p> <p>◎大阪薬科大学には、新規事業としてサマーサイエンスプログラムを実施していただいた。夏休休暇中に研究室の協力を得て、本格的な実験を行なうことができた。その成果として、生徒がタイで行なわれた国際学会において、ポスター賞に選出された。</p> <p>◎GAコースでは、京都大学の研究室と連携し、グローバルヘルスの研究者を講師としたセミナーを4回実施していただいた。</p> <p>△項目23の高1生の肯定的評価が71%。高2生の肯定的評価が64%であった。コース制によりプログラムの対象者が限定されていることもあり、全体的に多様な経験や体験ができたという実感を得られていない生徒がいるようである。学校全体として、カリキュラムを整備していくことが必要であると思われる。(△)</p>

<p>④「探求型」学習の充実と学力の三要素の育成</p>	<p>(1) 高校生の「探求型」学習の充実と中学生段階での素地作り (2) 学力の三要素の育成</p>	<p>ア. GSコースにおけるSS課題研究 イ. GAコースにおけるグローバル課題研究 ウ. GLコースにおけるクリティカルシンキング エ. 中学卒業論文 オ. 中1 総合学習で行う学びのリテラシー カ. 中2 総合学習で行う課題解決型学習 キ. 各教科における言語活動(プレゼンテーション、グループ発表、ディベート)の実施 ク. 学修ポートフォリオ『My Career Notebook』の導入と記入指導 ケ. 学修インタビュー(中1・中2)</p>	<p>・各教育プログラムの実施 ・自己評価において項目22「現代的な課題やグローバル 이슈をアツかった教育活動が行われている」の肯定的評価が75%(H27年度59%)</p>	<p>・コース制3年目を終え、各コースにおいて探求活動や課題研究をより充実して行なうことができた。(◎) *GSコース、GAコースでは、課題研究の成果を校内・校外で発表する機会が増え、課題の設定と研究・発表を通して、学力の三要素の向上に役立っていると思われる。 *中学段階では総合的な学習の時間において、基礎的なスキルや課題解決の方法、実験のプロセスの基礎を系統立てて学習するカリキュラムを実施した。その発表においては、探求活動の素地が養えたと思われる。 ・項目22の肯定的評価が74%と飛躍的に向上したが、目標値には若干及ばなかった。今後は学校全体でこれらの取り組みを共有していく必要があると思われる。(△)</p>
<p>⑤高い学力が確かに身につく指導とベンチマーク達成のための成果の検証</p>	<p>2017年までにベンチマークを達成するための学習指導の実践【ベンチマーク】 (A) 難関国立10大学合格者130名 (B) 国公立医学部+大阪医大合格者40名 (C) 中学卒業時の英語力50%が英検2級</p>	<p>(1) ベンチマーク達成と進学実績の飛躍的な向上を図るための取り組み ア. 各学年が取り組む学力向上策 イ. 模試結果検討会議の実施(中学3学年×年2回) ウ. 各教科に担当者を2名以上おき、京大合格者を増やすための取り組みを実施する (2) 中学段階における学習指導の徹底 ア. セルフマネージメントプランナーを積極的に活用し学習習慣の向上を図る。 イ. 家庭学習時間2時間以上を徹底する。 (3) 進路指導部主導による学力向上 ア. 模試結果のフィードバックと模試ノートを使った復習。模試における目標の明確化。 (4) 学習指導部主導による学力向上 ア. 日々の学習での基礎基本の徹底 イ. 好ましい学習習慣を身につけるための指導 (5) オンライン教育の導入の有効活用 (6) 大学入試対策放課後講座(アフタースクールアカデミック(AA)講座)の開設による受験対策の強化 (7) 進路意識を向上させるキャリア教育の充実</p>	<p>(1) 各学年の学習到達度の状況と学力向上策の成果について、学期毎に検証する (2) 中学生の評価において「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」「学習意欲や進路意識が向上するように指導をしている」の肯定的評価がそれぞれ70%(H27年度項目19が67%、項目21が65%) 中学卒業時の英検2級合格率30% (3)(4) 高校生の評価において項目21「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が80%(H27年度74%) (5) 中3～高2で実施 (6) 高2 高3で実施 (7) 中1、中2、高1で講演会を年1回実施</p>	<p>(1) ア. イ 中学においては学力向上のための取り組みの成果が顕著にあらわれている。模試結果検討会議で目標に対する成果の検証を行ない、その後の指導に活かす取り組みが浸透した。中1・中2では、上位層の増加と下位層の減少が近年にない形でみられた。(○) ウ. 京大対策チームによる講演会、京大入試問題分析冊子の発行などを行なったが、全体に対してより意識や学力を高める方法を模索する必要がある。(△) (2) 項目19の肯定的評価が66%、項目21が60%と評価が下がった。中2で特に評価が低く出ており、中だるみが出てきやすい時期ではあるが、生徒の実態に寄り添って指導を徹底していくことが求められている。(×) 中学卒業時の英検2級合格率は24%であった。ミッション達成に向け、指導力の向上に努める。 (3)(4) 項目21の肯定的評価は、74%であった。進路指導と学習指導の両面からいっそうの学力向上を図っていく必要がある。(△) (5) オンライン教育を導入し、有効なコンテンツの共有とどの時期にどの教材を見せればよいか、教科ごとにとりまとめた。導入学年全体でよりいっそう活用されるような方法を開発することが必要である。(△) (6) AA講座を開講したが、受講者数が限られていた。募集時期や広報、講座内容の改善が求められる。(△) (7) 各学年で計画通り実施した。(○)</p>
<p>⑥新校舎建設および将来構想</p>	<p>新校舎建築の推進</p>	<p>新校舎建築と今後のさわらぎキャンパス整備構想</p>	<p>・自己評価において項目39「施設・設備の拡充は、長期的見通しに立ち計画されている」の肯定的評価が70%(H27年度63%)</p>	<p>・平成29年4月高校校舎竣工により、施設・設備が大幅に改善された。それに伴い項目39の肯定的評価が10%上昇し、73%となった。 今後は長期的な展望のもとで、Ⅱ期工事に向けて計画を策定していくことが必要である。(○)</p>
<p>⑦徳育教育の充実</p>	<p>(1) 生活の基本を大切にしている指導の徹底 (2) 平和学習を目的とした修学旅行の実施 (3) 道徳教育の充実 (4) 人権教育の推進</p>	<p>(1) 生活の基本を大切にしている指導の徹底 ア. 服装 ← 「身だしなみ週間」の設定 イ. 挨拶 ウ. 清掃活動 (2) 平和学習を目的とした修学旅行(中3) (3) 中学3年間を通じた系統だった道徳教育 (4) 年間計画に基づく人権教育 ア. 每学期1回人権LHRの実施[各学年のテーマ] 中1: 他者を理解し、尊重する心を持つ 中2: 心身に障害のある人達の人権を考える 中3: 戦争の歴史を通して、平和の大切さを学ぶ 高1: 民族問題、人種問題について理解を深める 高2: 在日外国人問題を中心とした人権問題 高3: 生徒の人生や身近な人の人権について学ぶ</p>	<p>(1) 生徒の評価において項目12「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」の肯定的評価が中学生・高校生ともに75%(H27年度中学77%、高校61%)。 自己評価において項目40「清掃活動が行き届いている」の肯定的評価が10%上昇(H27年度48%) (2) 系統だった平和学習の実施 (3) 生徒の評価において項目27「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が中学80%(H27年度75%)。 (4) 高校生の評価において項目27の肯定的評価が70%(H27年度63%)</p>	<p>(1) 項目12の肯定的評価が中学生72%。高校生62%であった。中2・中3で学校生活への慣れから緩みが見られる結果となったが、校訓や教育目標に基づき、人間性の涵養を教育活動全体を通じて図っていく必要がある。項目40の肯定的評価が48%と±0であった。抜本的な改善が必要な時期にきていると思われる。(△) (2) 中3次において長崎への修学旅行に関連して、事前学習を含めて系統だった平和学習が行なわれた。(○) (3) 項目27の肯定的評価が中学生は73%であった。特に学年間で差が見られたので、道徳教育・HR活動のみならず、教育活動を通じて人権意識や徳育を行なっていく必要があると思われる。(△) (4) 項目27の肯定的評価が高校生は70%であった。上級学年になるほど数値が低くなる傾向があり、人権HRの取り組みを充実させるとともに普段の生活の中で人権意識を向上させるような指導を行なっていく必要がある。(○)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">◎社会貢献活動としてのボランティアの推進</p>	<p>ボランティア活動を行うための体制作りと活動支援および活動内容の充実</p>	<p>(1) ボランティア活動支援センターの体制確立  (2) ボランティア委員会(生徒の組織)の校外・校内における社会貢献活動  ア. 日本青年赤十字との連携  イ. 大阪医科大学との連携  ウ. インターアクトとの連携(地域連携)  エ. 防災プロジェクト  オ. 校内・校外企画  (3) 生徒募集イベントにおける「T-BEST」メンバーのボランティア活動</p>	<p>(1) 年度末報告  (2) 35名による活動  ア. 年16回  イ. 年15時間  ウ. 年5回  エ. 年5回  オ. 年5回  (3) 4回のイベントに40名が参加</p>	<p>(1) ボランティア活動支援センターの多岐にわたる充実した活動が年度末報告会議で報告され、その取り組みを教職員全員が共有できた。(○)  (2) ボランティア委員会のメンバーが〇〇人に達し、先の社会貢献活動に積極的に取り組むことができた。とりわけ大阪医科大学ボランティアセンター・インターアクト・日本赤十字との連携により活動の幅と質を大いに向上させることができた。(○)  (3) 全てのイベントに40名を超えるメンバーが参加し積極的に取り組んだ。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">◎指導力および資質の向上を図る教員研修の実施</p>	<p>教員の指導力および資質の向上</p>	<p>(1) 研究授業の実施(年2回)  (2) アクティブラーニング研修(全教員+各教科の推進メンバーを対象としたワークショップ)  (3) 公開研究会の実施  (4) 学びあい週間の活性化(授業見学とレポート提出の義務化)  (5) 英語科教育顧問による研修  (6) 国語科教育顧問による研修  (7) 教員向け人権研修会  (8) いじめ防止教員研修会  (9) 5年経験者研修  (10) 新人研修</p>	<p>(1~2) 自己評価において項目44「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある」の肯定的評価が75%(H27年度70%)  (3) 年1回  (4) 年1回  (5) 年4回  (6) 年4回  (7) 年1回  (8) 年1回  (9) 年間を通じて4項目実施  (10) 年間を通じて全15回  ・自己評価において項目43「校内研修は、教育実践に役立つような内容になっている」の肯定的評価が60%(H27年度45%)</p>	<p>(1)(2) 項目44の肯定的評価69%で横ばいの状況ではあるが、AL推進メンバーを中心とした取り組みは充実してきており、今後も積極的に研鑽できるように計画する。(△)  (3) AL公開研究会を実施し、全国から120名を超える参加者に来校いただき、本校教員と活発な研究協議がなされた。来場者のアンケートも好評であった。(○)  (4)~(10) 計画通りに実施できた。(○)  ・自己評価において項目43の肯定的評価が56%と10%以上の向上が見られたが目標値には到達できなかった。研修の内容を充実させ教育実践に役立てられるようなものにしていきたい。(△)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">◎ICT活用教育の推進</p>	<p>BYODに伴うICT教育の充実</p>	<p>今年度の中1からのICT教育の本格実施にあたり、ICT活用教育推進委員会を中心としたICT活用教育の推進・環境整備・指導体制の構築  ア. メディアリテラシーを含めた教育体制の構築(何を使って、何をさせるか)  イ. 校内環境の整備、システムの構築  ウ. 教員研修、生徒支援、広報活動</p>	<p>・推進委員、中1学年団を対象とした教員研修の実施  ・教員、生徒のICT活用を支援する体制の確立</p>	<p>・推進委員、中1学年団の研修は計画通り実施できた。(○)  ・ICT活用教育を推進するための環境整備、テクススタッフの配置による生徒の支援態勢の確立は十分に整えることができたが、メディアリテラシーやデバイスの利用方法をめぐるあらたな課題が出てきたため、今後は、学習用ICT機器の利用に関して、ルールづくりとその徹底が求められる。(○)</p>